

感染性胃腸炎(嘔吐・下痢症)について

[_____]さま

【感染性胃腸炎とは】

- 消化管(口から肛門まで:食道～胃～小腸～大腸)でウイルスや細菌が繁殖し、嘔吐・腹痛・下痢などが生じる病気です。
- 細菌やウイルスが含まれた食事をとっておこる場合と、風邪などと同じように飛沫感染で侵入する場合があります。

【感染性胃腸炎の症状】

- 下痢と嘔吐が主な症状です。腸の運動が亢進したりすることで上腹部の重苦しい感じや痛みをときに伴います。症状の程度はさまざまです。時に発熱をともなうこともあります。
- まれですが病原体によっては、腸管から出血を起こすものがあります(O-157 やカンピロバクターなど)。出血を伴うものは総じて重症化しやすく、注意が必要です、また感染性胃腸炎ではなく他の疾患も念頭におく必要があります。

【一般的な治療】

- 腸管の出血を伴う重症例を除けば、ほとんどの感染性胃腸炎は、細菌が原因であっても抗生物質を使う必要はないとされています。
- 下痢に対しては、例えば下痢を止める薬(市販の薬剤にもあります正露丸など)をつかうことは望ましくありません。嘔吐や下痢は消化管に病原菌が侵入したときに、早く病原菌を排除するために生じている生体反応ですので、下痢を薬剤で止めると、治りが遅くなったり、重症化したりする危険があります。下痢には逆らわない方が早くなおります。
- ただし下痢の弊害は、水分、電解質が喪失することで生じる脱水症状です。倦怠感や口の渇き、動悸などの原因にもなるし、しっかり水分と塩分(OS-1 のような経口補水製剤や、スポーツドリンクがおすすです)をとってください。口からの水分摂取できない、飲んでも吐いてしまうような場合は点滴をします。経口でしっかりと飲める場合には点滴にはほとんど意味がありません。
- 症状をやわらげ回復を早めるために整腸剤(腸内細菌のバランスを元に戻す薬)や胃薬、鎮痙剤(いたみどめ)や制吐剤(はきけどめ)を使用します。
- 以前「腸の風邪」とひとくりにされていたウイルス性胃腸炎の一つがノロウイルスです。ノロウイルスは他の嘔吐下痢症と比べてとりわけ重症ではなく、ノロウイルスに特定の治療薬もありません。ただ、きわめて少量の病原体の侵入でも発症する特徴があり、とにかくうつりやすいのが特徴です。
- ほとんどの感染性胃腸炎は2-3日でピークをむかえ1週間以内で治ります。下痢・嘔吐はつらいものですが、症状とうまく対処し、のりきりましょう。

上記内容を説明しました。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 科